

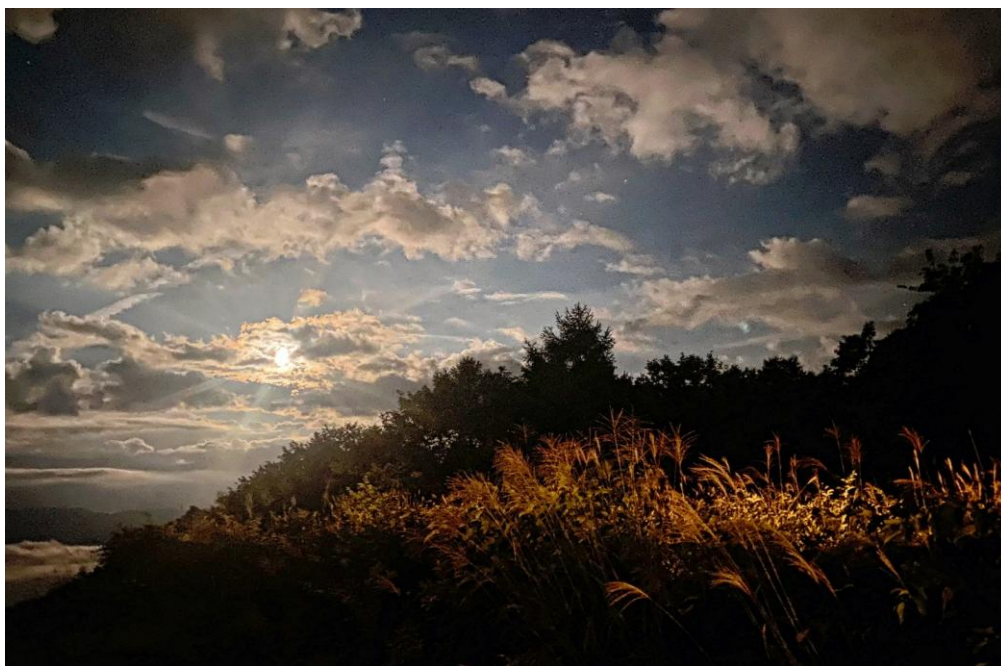
あいち環境

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



2026/10/20

会報 第169号



第7回 愛環協写真コンテスト

四季部門：大野 哲 氏（株式会社イズミテック）

【写真の趣旨説明】

秋分に一番近い満月を収穫の秋にちなんで「Harvest Moon(ハーベスト・ムーン)」と言います。日没後に白馬八方尾根を照らす月明かりは、いつもと違う秋の自然の景色を楽しませてくれました。

「ハーベスト・ムーン」

目次

委員会活動報告	2	新賛助会員紹介	6
令和8年度環境月間講演会受講報告	3	環境・時の話題	7
環境測定分析新任者研修会受講報告	4	事務局からのお知らせ	8
精度管理研修会【基礎統計コース】受講報告	5		

四季折々

3年連続で10月号の記事を書いているのだが内容はいつも同じ、「今年はとても暑い夏であった」だ。今年から酷暑日が設定されこの文言をメディアでどれほど見ることになるのだろうかと思っていたがよく見た文言は“災害級の暑さ”であった。この言葉は平成30年に流行語となり、命の危険を及ぼす暑さということから国民の暑さに対する心構えを変えた言葉と言われている。毎年毎年暑さの記録を更新していく中で、まだまだ新しい言葉が生まれるのかもしれない。

暑い暑いと書いているのも気が滅入るので今年は少し涼しい話題をと考えていたのだが・・・やはり“熱い”話題ワールドカップに触れないわけにはいかない。今大会は北中米3か国開催で行われ、優勝を目標にしている日本代表。近年の日本代表の進化はすさまじく、若い年代から海外でプレーする選手が増え、世代別の大会では好成績を収めている。結果はあえて残念ながらと書きたい・・・強国ブラジル相手に組織力では負けていなかったが土壇場の決定力の差で惜敗した。結果は前回大会予選で日本が勝利したスペインが優勝。4年後に期待を持たせてくれる、これまた酷暑日以上に日本中を“熱く”してくれた。

今夏も各地で地震や水害などにより多くの被害がでてしまった。台風が東から日本を横断したり、一日で一カ月分の降水量を超えてしまったりと予想がつかないことばかりだ。8月末でもまだまだ猛暑日が続く中で被災地では復旧作業に追われている。早期復旧と復旧作業中に2次被害が出ないことをただ祈るばかりである。

文責：日野 栄一

委員会活動報告

◇ 総務委員会

総務委員会では、恒例の「環境に関する喚起標語」作品を年末に募集開始する予定です。特選作品は、令和9年度の協会喚起標語として採用し表彰させていただきます。次回も皆様からの素晴らしい作品をお待ちしております。また、3月には「令和8年度景況調査」の実施も予定しておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

総務委員長 大場 恵史

◇ 企画・広報委員会

(1) 令和8年度第2回企画・広報委員会

7月3日、令和8年度企画・広報委員会を定時総会後、初めて対面開催で行いました。2名の委員が退任され、新しく1名の委員に加入していただきます。

もう1名はブロック会議にて勧誘予定としました。

(2) 会報誌あいかんきょう169号について

10月20日発刊の会報誌担当割、スケジュール、記事について説明を行い、監修者の中野委員より表紙写真の選定がされました。編集者は長瀬委員に対応いただくことになりました。

(3) 施設見学会候補地の選定

前回施設見学会終了後のアンケートで参加してみたい施設で最も多くの票を集めた東山動植物園に決定し、10月23日に開催します。

懇親会はサカナのハチベエ金山店で行います。

(4) その他の意見

第8回愛環協写真コンテストの募集を開始しました。募集期間は令和8年7月14日から令和9年2月26日到着分までとします。

テーマは例年通り、四季部門及び測定分析部門です。各テーマの金賞受賞者は令和9年度愛環協総会で表彰されます。

企画・広報委員長 石井 良孝

◇ 教育研修委員会

7月24日に精度管理研修会①【基礎統計コース】をオンラインで開催しました。23名が受講し、(株)東海分析化学研究所 夏目氏、(株)ユニケミー 今井氏、(一社)愛知県薬剤師会 小川氏の講師3名にご講演頂きました。中部地区だけでなく全国各地からご参加頂きありがとうございました。

9月17日、18日に精度管理研修会②【中堅実務コース】をオンラインで開催しました。上記夏目氏、小川氏に加え、(一財)東海技術センター 土屋氏、(株)環境科学研究所 牧原氏、愛知県立名古屋工科高等学校 井上氏にご講演頂きました。

10月30日にSOP研修会を対面形式の開催で予定しています。11月19日には環境計量士等研修会をオンライン開催で予定しています。多数のご参加をお願いいたします。

教育研修委員長 牛古 誠

◇ 技術委員会（水質、大気、騒音）

9月4日に令和8年度第2回技術委員全体会議を開催しましたので、その内容についてご報告いたします。

★水質・土壌ワーキンググループ

今年度は、模擬排水中の銅および全クロムを対象とした共同実験を実施しました。ご参加いただいた皆様には、厚く御礼申し上げます。

現在、実験結果のとりまとめを進めており、10月下旬ごろには中間報告をお知らせできる予定です。また、結果検討会を12月11日にN i t e r r a日本特殊陶業市民会館にて開催する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

★大気・臭気ワーキンググループ

今年度企画している意見交換会を、令和9年2月10日に開催します。

日頃の業務の中で技術者の皆様が感じている困りごとや疑問、課題などについて、参加者同士で意見交換ができる場にしたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

★騒音・振動ワーキンググループ

今年度企画している低周波音を対象とした共同実験について、実施方法や測定場所などの検討を進めました。

実際に低周波音を測定できる場所の選定に課題が残っているため、今後は候補地の現地確認なども行いながら、引き続き計画を進めてまいります。

開催時期は令和9年2月ごろを予定しております。

詳細が決まりましたら改めてご案内いたしますので、
よろしくお願いいたします。

技術委員長 伊藤 諭志

◇災害緊急時対応委員会

災害緊急時対応委員会では、8月6日に愛知県環境局資源循環推進課主催の「令和8年度災害廃棄物処理に関する研修会」に委員1名が参加しました。また同日、例年実施している災害協定締結自治体との訓練について、愛知県、豊橋市、豊田市、岡崎市、一宮市と打合せを行いました。本年度の訓練については、9月下旬頃に実施日や内容の詳細を災害協力認定会員の皆様へご案内しました。会員の皆様には積極的なご参加をお願いいたします。

また、9月11日には、当協会主催による「2026年度 災害時相互応援協定 意見交換会」を開催し、災害時における相互応援体制の強化に向けて9団体の関係者による意見交換を行いました。

7月28日に熊本県で最大震度7を観測する大規模な地震が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当地域においても、南海トラフ地震など大規模災害への備えが重要となっています。災害はいつ発生するか分かりません。引き続き、災害への備えと災害時の協力体制の強化に向け、皆様のご参加とご協力をよろしくお願いいたします。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

令和8年度 環境月間講演会 受講報告

株式会社 愛研

北川 舞

6月29日に開催されました「令和8年度環境月間講演会」に参加しました。本講演会では、第一部「愛知県におけるサーキュラーエコノミー推進の取組について」、第二部「データから見るクマとのつきあい方」の二つの講義を受講いたしました。それぞれ異なる分野でありながら、持続可能な社会の実現に向けて「正確なデータに基づく現状把握」と「社会や環境の構造的再設計」が不可欠であるという共通の重要性を深く学び、大変有意義な時間となりました。

第一部では、愛知県におけるサーキュラーエコノミー（C E）推進の取り組みについての講演を拝聴しました。製造業の一大拠点である愛知県の現状として、大量の資源消費や産業廃棄物の発生という課題を抱える一方、高い技術力や約70%に達する高い循環利用率という強みを有していることが示されました。「あいちC E推進プラン」を軸として、従来の3Rという概念から一歩踏み出し、製品の長寿命化やサービス化といった新たな付加価値を生み出す姿勢に、今後の産業における持続可能性の重要性を強く感じました。中部国際空港での「プラスチック循環」や岡崎市での「指定ごみ袋 to 指定ごみ袋」、地域資源を活用したバイオマス複合プラスチック製品の開発など、官民連携のプロジェクトチームによる具体的な実践事例を通じ、事業活動全体で循環モデルを構築する重要性を実感いたしました。



（林会長のご挨拶）



（第一部：愛知県・松山氏のご講演）

第二部では、岐阜大学 野生動物資源学研究室の森部様による「データから見るクマとのつきあい方」の講演を拝聴しました。近年相次ぐクマの出没や人身被害について、統計データに基づいた客観的な分析が提示されました。出没増加の要因は気候変動のみならず、餌となるどんぐりのなる木（堅果類）の凶作や里山管理の低下、人里の放置果樹や生ゴミへの味占めが複合的に影響していることを学びました。また、社会的関心度が高まると行政への通報が増加するため、報道過熱によるバイアスに惑わされず、事実に基づいてリスクを正確に評価する視点の大切さを認識しました。捕獲などの一時的な対策に依存するのではなく、草刈りによる緩衝帯の整備や誘引物の徹底除去を行い、「人里をクマにとって魅力のない場所」にする環境管理こそが根本的な解決策であることを理解いたしました。



（第二部：岐阜大・森部氏のご講演）

今回の講演会を通じ、社会課題の解決には対症療法ではなく、「事実に基づいた」現状把握と根本的な仕組みの再構築がいかに重要であるかを再確認いたしました。今回得た知識と視点を活かし、客観的なデータに基づいた業務の遂行と地域の持続可能な取り組みへの貢献に努めていきたいと思っております。



（環境月間講演会の様子）

環境測定分析新任者研修会 受講報告

一般社団法人愛知県薬剤師会

佐久川 カミラ

6月11日から12日の2日間にかけて開催されました令和8年度環境測定分析新任者研修会に参加しました。本研修では、環境計量の歴史的背景や関連法令に加え、精度の高い測定を行うために必要な取組について学びました。

1日目午前是一般財団法人東海技術センターの山本敦恵様から、環境計量の業務に関する講義が行われました。四大公害やPFAS、マイクロプラスチック汚染などの背景を学び、環境計量が時代とともに変化する環境問題への対応の基盤となる重要な役割を担っていることを理解しました。そして、測定、分析して得られた結果が、信頼性のあるデータであることの責任が必要であると再認識しました。



（新任者研修会の様子）

1日目午後から2日目午前にかけては、精度の高い測定を主題とした講義が行われました。まず、株式会社テクノ中部の判治寿高様から、サンプリングの基礎や化学分析について学びました。分析機関では、分析値のトレーサビリティの確立や社会的信用を維持するため、ISOやGLPに基づく管理体制が求められます。そのため、測定の不確かさに影響を及ぼすサンプリングでは、公定法に沿った採取方法や保存処理を適切に行うことが必要であると理解しました。また、試料が汚染されないよう、分析環境及び試験に用いる器具や試薬の点検・管理、そして分析者で結果に違いが出ないよう定期的な精度管理を通じて、技術の維持・向上に努めることが重要であると再認識しました。

その後、株式会社環境科学研究所の牧原大様から機器分析について学びました。各分析の分類や原理、手法の

基礎など、それぞれの特性に基づいて適切な試験法を選択する要点の理解を深めました。さらに、検量線や標準物質の作成方法、分析値の取り扱いについて学び、得られた結果が客観的に見て信頼性のあるデータかどうかの判断、測定値のばらつきや正確さ、外れ値を見極めるには、継続的な技術向上と科学的知見の蓄積が必要であることを再認識しました。

2日目午後は作業環境測定インストラクターの新谷良英様から、労働安全衛生に関する講義が行われました。近年、化学物質について改正された労働安全衛生法について、その改正に至った経緯や背景を学びました。そして現場の安全性を確保するため「目に見える安全」の確認や、リスクを想定して未然に防ぐ「目に見えない安全」の重要性を理解しました。

本研修を通じて、環境計量が社会にどのような役割を担っているか、またその責任について改めて考える機会となりました。より信頼性のある分析結果を提供するため、今回学んだ知識を日々意識して業務に努めたいと思います。



(新任者研修会の様子)

精度管理研修会【基礎統計コース】受講報告

株式会社東立テクノクラシー
鬼頭 優斗

7月24日に開催されました「令和8年度精度管理研修会①【基礎統計コース】」にオンラインで参加しました。以前より統計学を学びたいと思っていたところ、タイミング良く本研修会を受講する機会を得ることができました。

本研修会は「基本統計量」、「検定」、「外れ値の検定」の3部構成で、オンライン画面で資料を交えた解説、Excelを用いた統計処理の実習を行いました。

最初の「基本統計量」では基礎である統計的判断や、母集団と標本でのデータの取り扱い、測定結果の誤差とその種類、そして正規分布や標準化といったことについて学びました。Excelを用いてデータをまとめる方法では、標準偏差の計算をExcel内で順に行い、求められるまでの流れを理解した上で、関数やデータ分析ツールを利用することで、より効率的に標準偏差を求めることができました。さらに、ヒストグラムの作成や関数の活用方法についても学び、データを整理・分析するための基本的な方法を身につけることができました。

次の「検定」では検定を行うための基礎、確率分布や帰無仮説についての講義があり、その後、実際の数値を用いてz検定やt検定の計算方法や流れを学びつつ、Excelにて数式やデータ分析ツールを使用して必要なデータを求めました。データ分析ツールを使用することで簡易に検定を行えるものの、一方でどのツールを使い、どこへ入力しないといけないかといった運用面での深い理解がまずは必要だと感じました。

最後の「外れ値の検定」ではGrubbsの検定やzスコアを用いた評価法について学びました。この評価法は外部精度管理でも使用されており、正規分布を使用するかどうかで検定方法を選択するということでした。データの取り扱いにおいてヒストグラム等で分かりづらい場合は、箱ひげ図を使用することでデータの特徴が容易で分かりやすくなるため、今後を活用しようと思います。

今回の研修会を通して、Excelについても基礎から始めたため、再確認も含め非常に理解しやすかったです。私は統計学を学んだことがなかったため期待と不安な面もありましたが、難しい部分は後日復習して理解し直すようにしました。現在は十分とまではいきませんが、学んだことを少しずつ活用しています。分析という業務を行うだけでなく、出た数値に対して責任を持ち、尚且つお客様に対して信頼性の高い報告値となるよう一層努めていきたいと思っています。



(精度管理研修会の様子)

新賛助会員紹介

オルガノ株式会社 中部支店
浅沼 治朋

愛知県環境測定分析協会の皆様、こんにちは。

オルガノ株式会社は、この度、令和8年に賛助会員として入会させていただくことになりました。

日頃から地域の環境を守り、正確なデータ測定に真摯に向き合われている皆様の仲間入りができましたことを、社員一同とても嬉しく思っております。これからは水処理の技術を通じて、皆様の日々の分析業務をしっかりとサポートさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回は入会のご挨拶を兼ねて、分析や研究の現場で活躍している当社の純水・超純水製造装置をご紹介します。

正確な測定データを取得するうえで、ご存じのように「水」の純度は非常に重要になります。ほんのわずかな不純物が測定結果に影響を与えてしまうためです。

オルガノは長年、水処理の専門メーカーとして技術を磨いてまいりましたが、そのひとつの実績として、あのノーベル物理学賞受賞に貢献した「スーパーカミオカンデ」の純水供給システムがあります。最先端の科学を支えた技術のノウハウが、私たちが作る分析用の装置にも活かされています。

そのような技術を結集させたのが、「ピューリック（PURIC）シリーズ」です。

まず、「ピューリック α（アルファ）」や「ピューリック μ（ミュー）」は、毎日の分析において最高水準の超純水を安定して使いやすく供給するために開発されました。水質管理が厳しく求められる環境分析の現場でも、常に信頼性の高い水質を維持し、分析データの精度の向上に貢献します。



ピューリック α



ピューリック μ

そして、多くのICP-MS分析現場等でご好評をいただいているのが「ピューリック ωⅡ（オメガツー）」です。コンパクトな設計でありながら、水道水から直接、高純度な超純水を効率よく製造することができます。ωⅡは業界最高水準の水質をご提供できます。



ピューリック ωⅡ

さらに、オルガノの製品はすべて「国産」にこだわって製造されています。海外製の分析機器や周辺機器が多い中、私たちの製品は海外品にも負けない高い性能と使いやすさを備えており、日本のきめ細やかなニーズに寄り添った設計が特長です。トラブル時の迅速な対応や安定した部品供給の体制も含めて、お客様に安心をお届けしております。

愛知県環境測定分析協会の会員の皆様、日々のサンプル前処理や分析において、水質の維持や管理にお困りのことはございませんか。オルガノは皆様の良きパートナーでありたいと考えております。今回は賛助会員としての入会を記念いたしまして、協会の方には特別価格で装置をご提供させていただきます。装置の導入検討はもちろんのこと、水質に関するお悩みやメンテナンスに至るまで、どうぞお気軽にご相談ください。



スーパーカミオカンデを満たしている
超純水はオルガノが作っています。

今回の入会をきっかけに、多くの会員の皆様と交流を深め、愛知県の環境測定・分析技術の発展に貢献してまいります。

これからどうぞよろしくお願いいたします。

【純水・超純水装置に関するお問合せ先】

オルガノ株式会社 中部支店
標準装置グループ
浅沼・高橋・中村 電話：052-856-1540

環境・時の話題 「猛暑時代の環境測定」

近年、日本の夏は「災害級の暑さ」と呼ばれるほど厳しさを増している。35℃を超える猛暑日は珍しくなくなり、40℃近い気温が観測される地域も増えていきます。

気候変動の影響により、猛暑は一時的な異常現象ではなく、新たな日常として定着しつつあります。こうした環境の変化は、私たちの生活だけでなく、環境測定の現場にも大きな影響を与えています。

環境測定では、大気、水質、作業環境など様々な調査を行います。その多くは屋外や高温環境下での作業を伴います。

真夏のボイラー設備周辺や屋上での測定では、実際の気温以上に体感温度が上昇することも珍しくありません。熱中症はもはや特別なリスクではなく、現場作業における最重要課題の一つとなっています。

このような状況の中で注目されているのが、気温だけでなく湿度や輻射熱も考慮したWBGT（暑さ指数）の活用です。作業前にWBGTを確認し、危険レベルに応じて休憩時間を増やしたり、作業時間を短縮したりすることで、熱中症リスクの低減につながります。また、空調服や冷却ベストの活用、こまめな水分・塩分補給も重要な対策となっています。

さらに、環境測定の役割そのものも変化しています。気温上昇やヒートアイランド現象の実態把握、大気環境や温室効果ガスの監視など、測定データは気候変動対策の基礎資料としてますます重要になっています。正確な測定結果を継続的に収集することは、社会全体の気候変動への適応や脱炭素化の推進にもつながります。

猛暑時代に求められるのは、「暑さを我慢する」考え方から「暑さを前提に行動する」考え方への転換です。

環境測定に携わる私たちも、安全を最優先にしながら、変化する環境を正しく捉え、その情報を社会へ提供していかなければなりません。災害級の暑さと向き合うためには、一人ひとりの意識改革と現場での確実な対策の積み重ねが欠かせないのです。

（文責：長瀬 勝）

事務局からのお知らせ

【環境計量士等研修会】

令和8年11月19日（木）
オンライン開催

【共同実験（水質関係）結果検討会】

令和8年12月11日（金）
N i t e r r a 日本特殊陶業市民会館＋オンライン開催



編集後記（長瀬 勝）

今年の夏は全国各地で猛暑が続き、「災害級の暑さ」という言葉を改めて実感する季節となりました。そのような中でも、環境測定や分析に携わる会員の皆様は、安全確保に努めながら日々の業務に取り組まれていることと思います。

本号では、各委員会活動報告をはじめ、環境月間講演会や各種研修会の報告、新賛助会員紹介など、多彩な内容を掲載しております。会員の皆様の積極的な活動や交流の様子を通じて、協会活動の広がりを感じていただければ幸いです。

季節は秋へと移り変わりますが、まだ暑さが残る日も予想されます。体調管理には十分ご留意いただき、引き続き安全第一で業務に取り組まれますようお願いいたします。

本号の発刊にあたりご寄稿いただいた皆様、編集にご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後に、この会報誌は会員の皆様から寄稿いただいた原稿によって成り立っています。これからもより魅力ある会報誌づくりに努めてまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



発行人 （一社）愛知県環境測定分析協会
会長 林 辰哉

編集 （一社）愛知県環境測定分析協会 企画・広報委員会

〒460-0022

名古屋市中区金山1-2-4

アイディエリア405号

TEL: 052-321-3803

FAX: 052-684-4238

E-mail: aikankyo@nifty.com

委員長: 石井 良孝

副委員長: 柳下 武己

委員: 中野 雅則、日野 栄一、佐藤 勇人

渡部 すみれ、森下 智彦、長瀬 勝